

巻頭小特集

森鷗外没後一〇〇年

- 森鷗外・没後百年の遺恨 小堀桂一郎 6
- 回想集のなかの鷗外 宗像和重 8
- 森鷗外に於ける学問の自由の行方 山崎一穎 10
- 昇華と救済——『高瀬舟』をめぐる 勝又浩 12

特集 旅×文学

- 対談・川村湊 × 佐藤洋二郎 23
- 佐川光晴 HAVE PEN, WILL TRAVEL 47
- 高橋真名子 文学に彩られた東海道 51
- 楊逸 ラテンの風 55
- 加藤宗哉 旅・文学・ハスのタネ 59
- 吉行淳之介と須賀敦子の交叉するところ
- 多岐祐介 旅とみし世 63

文科 『元亨釈書全訳注』（新典社刊）に取り組んで 今浜通隆 68

ワシントン・アーヴィング文学が日本に来た 齊藤昇 70

『評伝小川国夫——至近距離から』について 山本恵一郎 72

『昭和の古本屋を生きる』からの連想記 青木正美 74

チター、神々の微笑 内藤敏子 77

鎌倉幽世八景（4）
創作 唐糸 藤沢周 88

医学と文学の間（8）大鐘稔彦 98

——「アウトサイダーの生涯」——

乱雲の月——後光厳天皇の時代（7）
『新千載集』 松本徹 113

薔薇と少女 岩下壽之 126

ドッペルゲンガー 土井莊平 138

柿 波佐間義之 148

明日に架ける橋 小松原蘭 156

あの夏の匂い 後藤克之 190

同人雑誌季評

全ての出来事は無意識で
起こっている 河中郁男 266
傾向と対策 谷村順一 308

連載 名作の舞台―記録と記憶③④

石川啄木『雲は天才である』・島尾敏雄『出発は遂に訪れず』 清水節治 86

海の詩学―三島由紀夫 6

オスカー・ワイルドの囁き(前半)

―聖セバスチャンとアンティノウスをめぐって 鈴木ふさ子 225

学界への窓 16

魯迅『狂人日記』と男三郎事件 坂井 健 238

私の朝鮮半島地図(II)

漢江の奇跡と光州事件

そしてソウル・オリンピックなどなど(続) 柴田 翔 243

「ことば」と「からだ」 29

離れる(2) 芹沢俊介 247

文藝季評 39

一つの世界との多様な関わり方 伊藤氏貴 258

「私小説」を歩く 第二十四回 檀一雄

酒はいいぞお。ぜひ飲みなさい。 佐藤洋二郎 315

大倉山から 12

戦後の出発と『盗賊』―三島由紀夫考 松本 徹 321

砦

松本 徹 155
勝又 浩 189

会員規約 336
今号の執筆者 337
編集後記 338

今号の中沢けい「中上健次と韓国」、勝又浩「道元」「正法眼蔵」の宇宙と人間」は休載となります。

同人雑誌および会員から―― 262
文芸同人はいま 松原礼二
いわゆる「同性婚」について 雄高敬介